

平成 17 年 2 月 25 日

各 位

会社名 イーシステム株式会社
(コード番号: 4322)
代表者名 代表取締役社長 渡辺 博文
問合せ先 管理本部本部長 大西 浩之
(TEL. 03-5781-8763)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等に踏まえ、平成 16 年 8 月 30 日に発表した連結業績予想および単体業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 16 年 12 月期決算 連結業績予想数値の修正 (平成 16 年 1 月 1 日 ~ 平成 16 年 12 月 31 日)
(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,000	500	300
今回修正予想 (B)	6,196	272	483
増減額 (B - A)	196	772	783
増減率 (%)	3.3	-	-
前期実績 (平成 15 年 12 月期決算)	-	-	-

2. 平成 16 年 12 月期決算 単体業績予想数値の修正 (平成 16 年 1 月 1 日 ~ 平成 16 年 12 月 31 日)
(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	5,900	400	230
今回修正予想 (B)	5,353	302	417
増減額 (B - A)	547	702	647
増減率 (%)	9.3	-	-
前期実績 (平成 15 年 12 月期決算)	7,432	903	518

3. 修正の理由

当期におきましては以下の要因から、連結および単体ともに前回発表した業績見通しを下回る見込みとなりましたので予想数値を修正することと致しました。

大型案件におけるプロジェクト遅延解消が当初想定に比べて遅れたこと、
プロジェクトの進行が遅延していた大型案件について、当初、6 月末までの遅延解消を見込んでおりましたが、実際には 11 月での解消となりました。

その他の案件でのプロジェクトの進行に関しても、の影響を受けてずれ込みが発生したこと、
の解消遅延に向けて当社コンサルタントを投入した結果、その他の大型案件における進捗スケジュールにおいて、一部、次期へのずれ込みが発生しました。

当社ビジネスの最盛期である 11 月および 12 月において、アソシエント社および中央青山監査法人への対応で当社の役員等が大きく時間を割かれた結果、ビジネスの進捗に大きく影響したこと、当社の外注先であったアソシエントテクノロジー社の粉飾決算が 10 月に発生した結果、アソシエント社の調査委員会および当社の会計監査人であった中央青山監査法人の調査に対応したため、当社ビジネスの最盛期である 11 月および 12 月に、当社の役員等が大きく時間を割かれました。CRM 導入の決定および進捗は、導入企業の経営陣に対するアプローチが極めて重要であり、当期に関しては、大きなビジネス機会の損失となりました。

「IT 企業における会計の厳格化」に対応して、でき得る限り保守的な会計基準に変更したこと、当社は、当社会計監査人であった中央青山監査法人を 12 月に解任し、一時会計監査人として ASG 監査法人を選任しました。当社は、ASG 監査法人の指導のもと「IT 企業における会計の厳格化」へ対応を進め、でき得る限り保守的な会計基準に変更しました。この結果、当期において以下のような処理を実施しました。

- (1) 外部からは内容が判り難かった「前渡金」を「ソフトウェア使用許諾権」と「前渡金」に明確に区別し、内容について精査しました。この結果、販売計画に不確定性が認められる保守料 75 百万円について費用処理しました。
- (2) アソシエント社から購入したソフトウェア群に関して、同社からの「現時点での導入開発支援は難しい」との判断を基に、評価減を実施し 261 百万円の特別損失を計上しました。これは、中央青山監査法人から「製品性の観点から、一部の製品について評価減が必要」と指摘を受けていた製品群ですが、当社で内容確認を実施した結果、製品性に問題は無いと判断しました。しかしながら、実際の販売・導入時には、開発元であるアソシエント社の開発支援を必要とするため、上記のアソシエント社からの確認を受けて、導入支援を受けられない可能性を考慮し、その全てについて評価減を実施しました。
- (3) その他の販売用ソフトウェアについても精査を実施し、MRM (マーケティングリソースマネジメント) 展開に向けて購入したソフトウェア 3 種類について、短期的に MRM 市場の拡大ペースが不透明なため、販売計画の確度が不確定であることから評価減を実施し、46 百万円の特別損失を計上しました。

以上